



2019.8 「アフリカのきれいな街プラットフォームにて登壇しました」

2019年8月26日～27日、アフリカ諸国が直面する廃棄物課題についての意見交換の場として、環境省とJICAが主催するTICAD7サイドイベント「アフリカのきれいな街プラットフォーム」第2回全体会合が開催されました。

当社も会合に参加し、開発途上国への環境系特装車提供の取り組みについてプレゼンを行いました。

【当日の様子】



当社の取り組み

当社のごみ収集車をはじめとした環境系特装車を、開発途上国に主にODA（政府開発援助）を通じて提供し、「誰もが安心して健康に住み続けられる街づくり」に貢献しています。

開発途上国への環境整備車両提供実績（2016年以降）：**8カ国 278台**

今後も他企業や他団体と協業することで開発途上国の現状やニーズなどの情報を収集し、さらに積極的な課題解決に向けた取り組みを推進して参ります。

開発途上国の現状

開発途上国ではごみの多くが道や空き地、川など街のいたるところにそのまま捨てられ、放置されています。

特に貧困層の住居が過密化している地域（スラム）では、腐敗したごみによる異臭や病原菌の拡散、廃棄注射針による病気の感染などが問題になっています。

この状況を引き起こしている原因は、主に以下4つです。

- 1) 人口爆発に伴うごみの急増
- 2) 住民のごみや衛生に関する知識不足
- 3) 行政のごみ管理に関する知識不足
- 4) 支援する先進国と支援を受ける途上国のニーズや対応のミスマッチ



▲スーダンの様子